

コーポレート・ガバナンス

ガバナンス体制

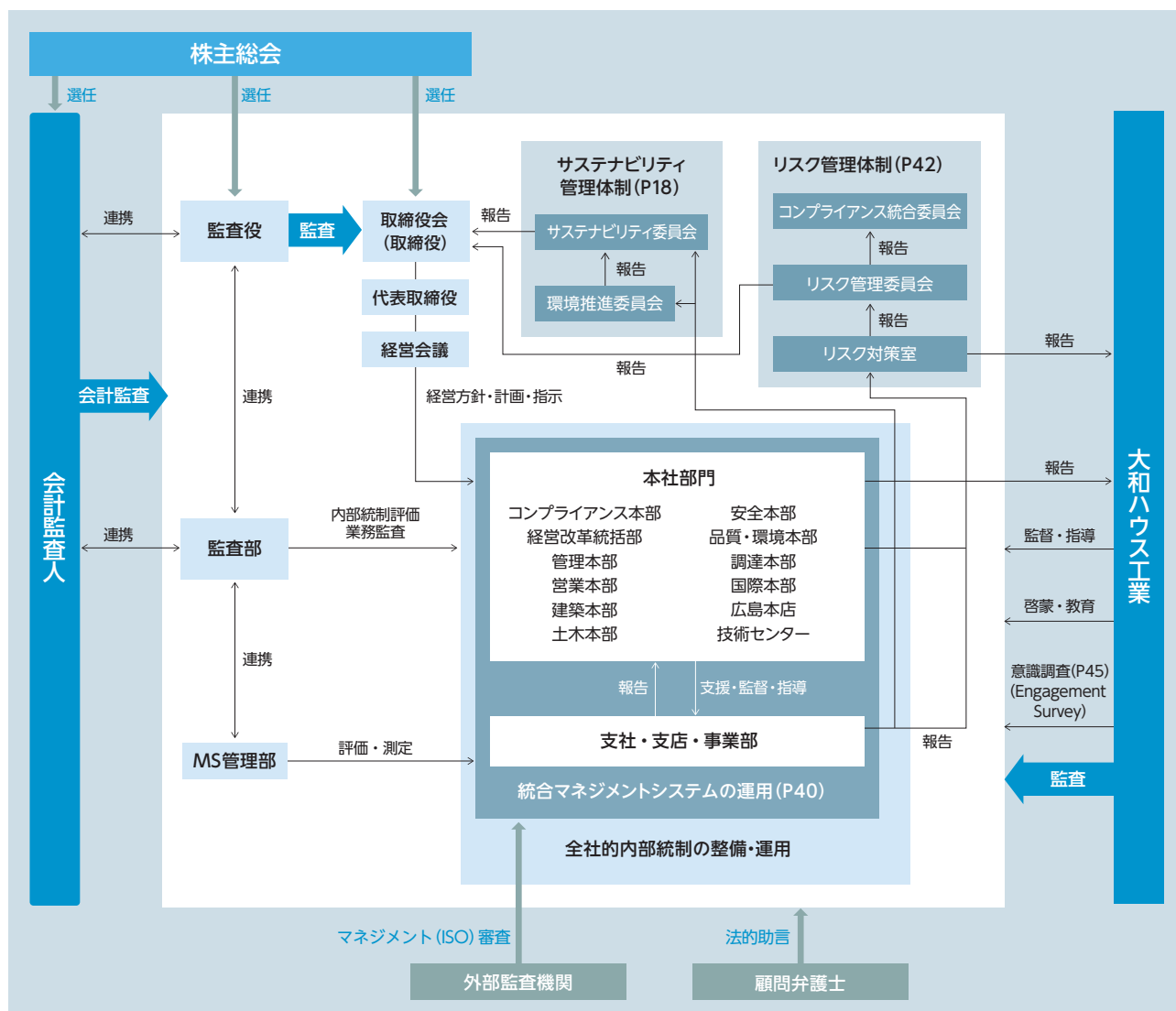
当社のコーポレート・ガバナンスは、経営を迅速かつ公正に行うための社内機構であり、監査機関を設置し第三者視点のチェック機能により透明性の確保および経営の質の向上を目指すものです。

その中核となる全社的內部統制では、職務執行時における管理体制の透明性確保や、業務上のコンプライアンス、リスク管理体制などを規定しています。当社では従業員全員が「経営判断の原則」を正確に理解し、各々の立場で判断・行動することが大切であると考えています。このコーポレート・ガバナンス体制は、大和ハウスグループのコーポレート・

ガバナンスガイドラインに則したもので、同体制の一部を構成するものでもあります。これらは会社法も踏まえた取締役会、監査役に加え、監査部監査や、弁護士など有識者を構成員に含めたコンプライアンス統合委員会を設置し、企業活動における法令遵守、公正性、倫理性を確保しています。

当社ガバナンス組織における会議体において議論された事項については適宜、大和ハウスグループのガバナンス組織へ報告され、常に連携を図りながらグループとしてのガバナンス強化に努めています。

コーポレート・ガバナンス体制図





Comment

フジタの持続的成長を支える経営基盤の強化に努めてまいります

中期経営計画では、持続的に成長し社会から信頼される企業であり続けるための「経営基盤の強化」、その中でもコーポレート・ガバナンス体制およびリスク管理体制の整備と強化を目標の一つに掲げました。初年度である2022年度は「原点回帰」とし、顕現したリスク事象について、リスク管理委員会、各主管本部ならびに監査部門が連携して、改めて対応策・再発防止策の策定と実施に取り組みました。

一方、経営環境は、想定を超える物価上昇などの影響があり、非常に厳しい状況が続きました。2023年度は、物価の高止まり懸念に加え、海外景気の下振れ、不安定な国際情勢、作業所従業者の長時間労働、技能労働者の不足など、当社を取り巻くリスクを見極め、的確に対応することが重要であると考えています。

まず、本年4月より、不透明な経済情勢や事業環境のリスクに対して、経営の客観性・健全性を高めるべく監査役を1名増員しました。また、作業所の重大災害リスクに対して監視体制を強化すべく安全本部を新設（安全・品質・環境本部からの独立）し、ガバナンス体制を強化しました。引き続き基礎を強固なものとしつつ、不透明な事業環境に動じない内部統制体制およびリスク管理体制を構築してまいります。



上席執行役員
コンプライアンス本部長
中井 雅章

■ ガバナンスの監視 内部統制評価と業務監査

全社的內部統制として、事業所・グループ会社を対象に、役職員に対するヒアリング、書類などの確認を実施することにより、法令および規程などに則った業務が遂行されてい

るかの検証・評価を監査部が実施しています。

また監査の結果、改善すべき指摘事項に対しては、当該部門に原因と対応策（再発防止策）の提出を求めるとともに、主管部門による指導・改善につなげています。

統合マネジメントシステム

■ 目標達成と製品・活動の適合性を確保するマネジメント

前述のガバナンス体制を踏まえ、各部門が目標達成と製品・活動の適合性を確保する経営および業務運用プロセスが「フジタマネジメントシステム」です。営業、設計、工事、調達、技術、研究など、すべての部署の業務はマネジメントの要素でもあり、それぞれ目標達成とリスク回避が必須です。そこで規格認証に沿って、部門ごと、また品質、環境、安全ごとに行われていた運用を改善し、①安全、品質、環境ほかすべての業務を扱う（マネジメント要素の統合）、②本社、支店などを含む全社一体で運用する（組織の統合）、③当社の日頃の業務プロセスに規格要求事項を当てはめる（業務の統合）の3点を実施し、運用しています。

2020年度からはマネジメントの目的を、「安全・品質・環

境」にとどまらず「目標達成とリスクの回避」へと大きく転換し、それにもなうマニュアル類の改訂、マネジメント教育の体系化、重大な品質事故につながる施工プロセスの改善、事故報告のワークフロー化、GRI/EcoVadisやグローバル・コンパクトなどESG・SDGsと連動するマネジメント要素の取り込み、目標設定・評価とマネジメントレビューの統合運用などを継続的に展開しています。

2022年度は、品質施工プロセス監査の新設、事故分析方法と体制の更新、「目標設定と進捗管理の手引き」「作業所管理必携」「OJT指針」の改定などに取り組みました。2023年度は、フロントローディングやDX、GXなどの業務プロセス、CDPなどのマネジメント要素の変化に対応するマネジメントの再構築に取り組みます。



コーポレート・ガバナンス

■ マネジメントシステムの運用・内部監査・マネジメントレビュー

当社のマネジメントシステムは、マニュアルや要領に従い、要求事項や社会的課題からリスクと機会を見極めて目標を設定し、活動と成果を評価の上、継続的に改善しています。

2022年度はシナリオ分析・重要課題を更新したほか、環境リスクを更新し14業務1,700項目で、エネルギー事業を追加登録しました。作業所では「基本計画書」「工事安全衛生計画書」で、安全・品質・環境リスクを抽出し、目標または管理項目として運用しています。

内部監査では「業務管理プロセスの確認」「幹となる課題発見と改善」を方針に掲げ、部署計画、業務手順など5項目の重点項目を抽出し、展開しました。これに合わせてチェックリストを「目標達成の課題抽出」「業務プロセス運用の確認」「課題と原因の深掘り」を重視した項目と内容に厳選、大きく改定し、有効な指摘件数を1.17倍に改善しました。各部門合わせて289件(内勤138件、作業所151件)の内部監査を実施し、部門ごとに内部監査報告会を実施しました。

2023年度は事故分析、内部監査報告会、マネジメントレビュー、業務監査結果を踏まえ、「リスクの発見と対応・改善」ほかを方針に掲げ、安全、品質など8項目の重点項目を抽出し、展開します。

各部門、経営層がそれぞれ実施した年2回のマネジメントレビューでは、目標達成や運用を評価し、これらの課題を踏まえて「安全」「品質」「業績」「マネジメントシステムの見直し」「労働環境」「GX」「DX」「人材育成」の8課題について、社長指示事項を発信し、今年度の活動に反映、展開しています。このほか審査対応など、全53項目の運用課題に取り組み、全11文書を改訂または準備しました。

■ マネジメントシステムと外部認証

現在フジタ全部門一括で、ISO9001(品質)、ISO14001(環境)、ISO45001(安全)規格の認証登録を一般財団法人建材試験センターから受けています。同センターによるフジタのマネジメントシステム統合度判定は100%で、審査も統合審査方式で行われています。このほか、関係会社2社、海外4拠点でも独自に認証登録しています。2022年度の審査では「リスクアセスメントと対策順位」「状況を踏まえた目標設定」「事故原因の分析」についての指摘があり、処置・再発防止策を実施しました。

■ 品質事故とマネジメント改善

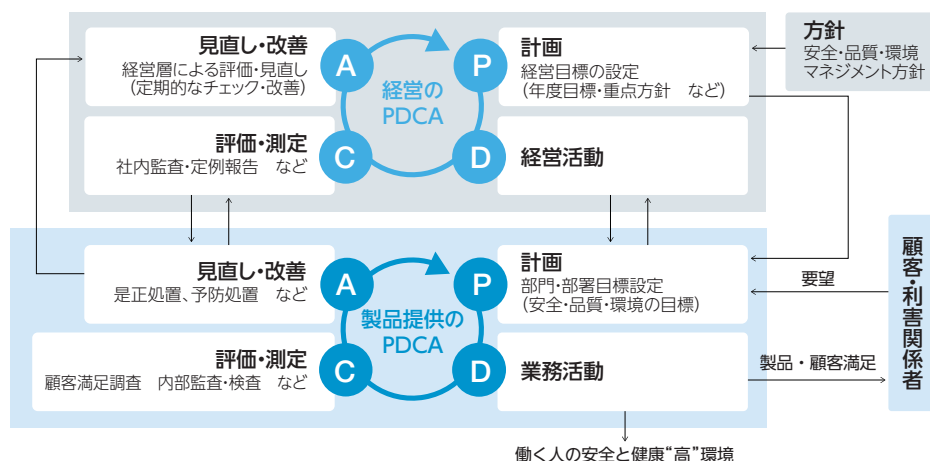
2021年度に工事中の重大な品質事故が複数発生し、技術上の処置対応もさることながら、工事再開にあたっては、お客さまからも施工プロセス上の分析を踏まえた再発防止策を求められるようになりました。

これを受け2022年度、施工プロセスを監査する品質監理部を新設しました。指摘と課題として「基本計画書の作成」「施工計画」「工程管理」「品質パトロールの実施」が挙げられました。

また事故分析では、「なぜなぜ分析」を加え、「施工プロセス」上の課題を中心に再発防止をまとめています。課題として「施工当日の施工管理の実施・記録」「検査・試験の実施」「次工程への引渡し許可」が挙げられました。

それぞれ施工プロセスを改善するとともに、2023年度の内部監査重点項目に反映しています。

2023年度は関係部署が連携しながら、本部を含めたパトロールの充実、品質・環境・物損、安全などの事故分析と改善に取り組みます。



安全・品質・環境マネジメント方針
<https://www.fujita.co.jp/company/charter/?open=Management#Management>

